

Global Management Program

グローバル マネジメント プログラム

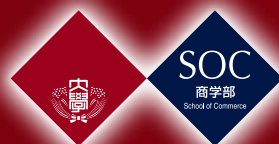
Annual Report

活動報告書

2025

国際社会に貢献するビジネス・リーダーを目指す

Becoming a business leader who contributes to the global society



早稲田大学 商学部

School of Commerce, Waseda University

世界へ羽ばたく人材を育成する 実践的なプログラム

「よりよい世界を創るグローバルビジネスリーダーを育成する」、これが早稲田大学商学部の国際教育プログラム Global Management Program (GMP)の使命です。現代の社会においては、地球／世界レベルはもちろん、国内においてもグローバルな知識・経験をもったリーダーが求められています。さらに、ビジネスは、各国の政治、文化、宗教と並んで現代社会を動かす大きな力となっています。GMPは「ビジネスを通じて今後の世界を創る」グローバルリーダーを輩出します。

GMPでは、グローバルビジネスリーダーに必要な資質・能力として次の3つを考えています。4年間のプログラムを通じて、学生のこれらの3つの能力を世界のトップレベルに引き上げます。

- 1 ビジネスにおける課題発見力、問題解決力
- 2 世界のビジネス、経済、文化、社会の知識
- 3 国際社会でのコミュニケーション能力



プログラムディレクター
早稲田大学商学部 教授
中 出 哲

Program Director
Professor, School of
Commerce,
Waseda University
Satoshi Nakaide

ご挨拶

GMPが誕生してから4年が経ちました。2025年度も、3・4年生あわせて約120名の学生が参加し、プログラムは着実に発展を遂げています。GMPでは、ゼミ単位の学習に加え、GMPフォーラム（合同ゼミ）、海外大学・企業との交流、海外ケース・コンペティションへの挑戦など多様な活動を展開し、その内容を年々充実させてまいりました。

本年度は、4月にHSBCグループ主催のビジネス・ケース・コンペティション世界大会日本予選を初めて本学で開催しました。本学からはGMP学生からなる2チームが出場し、18年の歴史を誇る国際大会の日本予選を本学で開催できたことは、今後のビジネス教育の展開においても大きな意義を持つものと考えております。続く8月には、シンガポールで開催されたケース・コンペティション「BFI Case Jam」にGMP学生を派遣し、国際的な舞台での実践的学習を経験しました。さらに9月の海外合宿は韓国・ソウルで実施し、成均館大学の教員・学生との合同演習に加え、現地企業5社を訪問して事前課題に対する解決策を英語でプレゼンテーションするなど、濃密で挑戦的な研鑽の機会となりました。

秋以降も、10月のGMPフォーラムでは株式会社電通との合同イベントを開催し、「未来学」をテーマに最新のテクノロジーも活用した一体感のある企画を展開しました。11月にはシンガポール国立大学 (NUS) 教授による特別セッション、12月には南洋理工大学 (NTU) の教員・学生を迎え、両校混成チームによる協働型プログラムを実施しました。また、商学部卒業生を招いたキャリアフォーラムも開催し、第一線で活躍する先輩方からキャリアデザインに関する示唆に富んだ助言をいただきました。

これらの活動はすべて、GMP学生が企画段階から主体的に関わった成果です。Students Committee (SC) を中心に、責任者を明確にして協働するなかで、学生はグローバルリーダーに求められる資質を着実に磨いています。GMP学生の成長は目覚ましく、その前向きで積極的な姿勢に触れながら、教員一同も大きな手ごたえを感じ、未来を担う人材が確かに育っていることを実感しております。

海外大学・企業との共同学習には、GMPへのご寄付も活用させていただきました。ここに心より感謝を申し上げます。今後もプログラムのさらなる発展に努め、実り多い学習の機会を提供してまいります。引き続き、GMPへの温かなご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

プログラム

Program

3つの修了要件

1 GMPゼミと論文執筆

GMPゼミは英語を主な言語として運営されます。GMPの学生は3・4年次の2年間継続して履修し、集大成として英語で卒業論文を執筆します。

2 GMPコア科目

英語によって行われるビジネスに関する専門科目を「GMPコア科目」として指定しています。コア科目のうち、5科目10単位以上を修得します。

▶コア科目

The Japanese Economy	International Management
Business Research Methods	International Strategies and Organization
Data Analytics for Business	Financial Management
Strategy, Policy, and Planning	Introduction to Risk and Insurance
Managing People and Organizations	Introductory Econometrics
Accounting: Financial Literacy for All	Business History
International Consumer Behavior	

3 英語運用能力

GMPの学生は1年次・2年次の必修英語において、習熟度別の上級プラスクラスまたは上級クラスの単位を修得する必要があります。上級プラス・上級クラスは1学年のうち上位20%以内を目安として選抜しています。その他の習熟度クラスの学生は、卒業時(GMP修了認定時)に指定された英語検定試験(TOEFL iBT、IELTS、TOEIC、英検)のスコアの提出により、英語運用能力を確認しています。



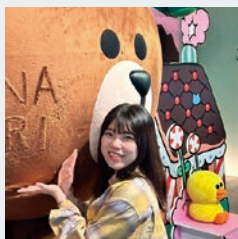
韓国合宿

2025年9月24日(木)から9月28日(日)まで、韓国・ソウルの成均館大学(Sungkyunkwan University)を主な訪問先として海外合宿を行いました。合宿では成均館大学で2つの講義を受講して現地学生との交流イベントを行い、また現地に展開する韓国企業・日本企業を訪問して企業研究のワークショップを開いていただき学生プレゼンに対してコメントをいただきました。サムスン電子のイノベーション博物館見学も貴重な体験となりました。ソウル稲門会のみなさまのご支援もいただき、キャリアフォーラムでお話をうかがうことができました。GMPの学生が主体となり、大きな成果を挙げた五日間でした。



■ 日程

- | | |
|-------|---|
| 9月24日 | 移動、現地キックオフミーティング |
| 9月25日 | 企業訪問 (Korean Re / KPMG / MUJI Korea / ハナ銀行)、GMPキャリアフォーラム in Seoul |
| 9月26日 | サムスン電子のイノベーション博物館見学、現地大学訪問 (成均館大学) |
| 9月28日 | 総括ミーティング、移動 |



梁取ゼミ3年
境田 紗也加

MUJI KOREAでのプレゼンテーションを通して、学生目線でのアイデアは社会人が持っていない柔軟性や視点がある一方、収益性や実現可能性まで考える力はやはり足りない部分があると、フィードバックを通じて改めて感じました。私たちが鋭いと感じたコメントは、自分たちが練りきれていなかった部分であると思うので、準備に割ける時間が限られていても、事前に想定質問を用意していく必要があると痛感しました。

稲門会の方々との交流では、仕事で海外経験があるみなさんが、海外赴任を困難が多いながらも楽しんでいる姿が印象的でした。私は英語を話すことにまだ苦手意識がありますが、できないというマイナス感情ばかりに目を向けるのではなく、その中でも楽しみながら学び、挑戦することの大切さを学びました。



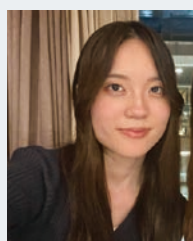
Waseda Japan Business Case Competition 2025

Event

2025年4月26日（土）に、ビジネス・ケーススタディの成果を競う「Waseda Japan Business Case Competition 2025」を早稲田大学で初めて開催し、GMPはHongkong Shanghai Banking Corporation (HSBC) と連携して大会運営にも携わりました。

今大会は、毎年夏に香港で開催される「HSBC/HKU Business Case Competition」の日本代表を選出する予選の位置づけでした。早稲田大学からはGMP学生による2チームが出場し、他大学の強豪チームと熱い競争を繰り広げました。とりわけ決勝戦では、電子機器の使用が禁止された環境で、紙とペンのみで課題に取り組み、限られた時間内で英語による企業戦略の提案に挑みました。残念ながらGMPチームの優勝はなりませんでした、見事2位に入賞することができました。

ビジネスの具体的な課題に向き合い、日頃の商学の学修成果を戦略に落とし込むケーススタディは、今や世界的な潮流です。多様なバックグラウンドを持つ他大学の学生たちと相まみえることで、GMP学生は大きな学びを手に入れました。



広田ゼミ3年
杉山 彩香

スマホもパソコンも回収され自分たちの思考力のみを使って、限られた時間の中で企業戦略の提案を行った今回の大会を通して、実践的な視点からビジネスにおける物事の考え方を学ばせていただきました。審査員の方の「企業戦略を立てる際には、斬新なアイデアだけでなく、付随する中長期でのビジネスモデルと、費用と収益に関する納得のいく説明が重要である」というアドバイスが印象に残っています。

また語学力についても、GMPやゼミでの活動を通して着実に以前の自分よりも成長していると感じられた一方、審査員の方からの鋭い質問に対応しきれず、ビジネスの場で自分の意見を述べるにはまだまだ成長の余地があると痛感しました。今回の貴重な経験をGMPでのこれからの活動に活かし、更なる成長に繋げていきます。



第1回 GMPフォーラム

2025年4月22日(火)

2025年度のGMPキックオフとして開催された本フォーラムでは、新3・4年生のGMP学生が一堂に会し、新年度最初のGMP活動の始動を祝うとともに、今後の活動への意識を高めました。新たにGMPディレクターに就任した中出先生からの温かく力強いメッセージに続き、GMPの概要説明や動画紹介を通して、学生たちはGMPへの理解を深めました。さらに、英語を使ったミニゲームやグループディスカッションでは、笑顔と活気にあふれる交流が生まれ、学年間のつながりを強めることができました。互いに協力し合う姿が印象的で、今後の活動に向けて力強いスタートとなりました。



第1回 GMPフォーラムの様子

第2回 GMPフォーラム

2025年5月20日(火)

「新興国市場への進出を検討する企業のリスクマネジメント担当チームとして、戦略的提案を行うこと」を課題に、GMP学生がゼミを横断して16チームを編成し、ケースコンペティションに取り組みました。事前課題では、各チームが業界セクターおよび新興国から2カ国以上を選定し、政治・経済・自然災害など多面的なリスクを分析したうえで、動画形式の提案を作成しました。フォーラム当日は動画選考を勝ち抜いた4チームが追加課題を含む最終戦略を発表し、質疑応答では即興で戦略の根拠やリスク対応策を説明しました。担当教員による講評と表彰も行われ、不確実性の高い環境下での戦略構築を実践的に学ぶ貴重な経験となり、チームワークと洞察力の重要性を実感する機会となりました。



第2回 GMPフォーラムの様子

第3回 GMPフォーラム

2025年7月1日(火)

日本の製菓メーカーであるカルビー株式会社の韓国市場進出戦略をテーマに、全14チームが戦略立案に取り組みました。GMPとして初めてゼミ対抗形式のコンペティションを導入し、各ゼミの専門分野や研究成果を生かした多様な視点の提案が展開されました。事前審査を経て選出されたチームによる発表では、市場データが限られる中でも精緻な仮説構築と論理的な戦略提案が行われ、活発な質疑応答が交わされました。対象市場である韓国は海外合宿先でもあり、学生は高い当事者意識を持って課題に向き合いました。本フォーラムを通じて、分析力に加え、説得力のあるプレゼンテーション力やチームで成果を創出する力を実践的に高めるきっかけとなりました。



第3回 GMPフォーラムの様子

オープンキャンパスでのプレゼンテーション

2025年8月2日(土)、3日(日)

早稲田大学オープンキャンパスでは、GMP学生5名(上田朔也、上田瑞稀、河合紗良、佐々木晴香、船田大翔)がGMPについてプレゼンテーションを行い、現役学生の日線から、GMPの内容や得られる学び・体験を高校生や保護者にわかりやすく紹介しました。コア科目や海外合宿、国際ケースコンペティションの経験も共有され、参加者は熱心に耳を傾け、GMPの魅力を発信する貴重な機会となりました。



オープンキャンパスの様子

BFI Case Jam出場

2025年8月30日(土)

シンガポールで開催されたSingapore Management University (SMU) 主催のケーススタディコンペティション「BFI Case Jam」に、GMP学生6名(バシューツカヤ ミラーナ、福井 那奈実、木澤 未来、王 一冰、黄 天舒、李 佳盈)が参加しました。本大会では、ファミリービジネスが直面する実際の経営課題に対し、6時間以内に解決策を考案することが求められ、即興性や協調性が重視される点が特徴です。世界各地から集まった120名以上の学生が多国籍チームに分けられ、短時間で互いの強みを理解し、支え合いながら調査・分析・戦略立案を行い、成果をビデオプレゼンテーションとして提出しました。黄さんが所属するチームは決勝に進出し、全体の前で発表と質疑応答を行い、見事第2位を獲得しました。この経験を通じ、多文化メンバーとの協働力、短時間で戦略を構築するリーダーシップや柔軟性、実務的課題への対応力を高めることができ、GMPの教育成果を国際舞台で実践的に示すことができました。



BFI Case Jamの様子

第4回 GMPフォーラム

2025年10月28日(火)

早稲田大学商学部GMPと株式会社電通による特別共同講義「早稲田×電通 未来学 ～未来にひらめく200分～」をテーマに、未来の捉え方や自ら創り出す社会の在り方について、理論と実践を通じて学びました。前半のインプットセッションでは、電通の企業理念やこれまでのプロジェクト事例の紹介を通じて、未来学に取り組む意義を学び、従来の課題起点型に代わる「Vision Driven」の思考法について理解を深めました。後半のクリエイティブセッションでは、「日本がワクワクする社会」をテーマに、参加者がインタラクティブに意見を出し合い、未来の社会像を自由な発想で描くワークに取り組みました。リアルタイムでのグラフィックレコーディングも交え、思考を可視化しながら議論を進めることで、未来を主体的に構想する姿勢を養う機会となりました。GMPにおける実践的・創造的学びを体現する素晴らしいフォーラムとなりました。



第4回 GMPフォーラムの様子

第5回 GMPフォーラム

2025年11月25日(火)

シンガポール国立大学のSam Yam先生を迎え、「Making Better Decisions」をテーマに、意思決定論・人間行動論・行動経済学に基づく双方向型レクチャーとケーススタディを実施しました。レクチャーでは、人間が無意識に抱く認知バイアスや、データや統計を用いた判断に潜む落とし穴について具体例を交えながら学びました。続くグループワークでは、記事分析や事例に基づく二つのケーススタディに取り組み、限られた情報の中でどのようにデータを精査し、判断すべきかを議論しました。学生は、表面的な数値や期待値に惑わされず、データの前提や欠陥を批判的に検討する重要性を体感し、意思決定において倫理的視点が不可欠であることを強く認識することができました。



第5回 GMPフォーラムの様子

第6回 GMPフォーラム(学生研究成果発表会)

2025年12月16日(火)

年度最後のGMPフォーラムとして、4年生による学生研究成果発表会を開催しました。本発表会では、各ゼミから選抜された学生が、卒業論文の研究成果をオーラルまたはポスタープレゼンテーション形式により英語で発表しました。限られた時間の中で研究の背景、分析結果、意義を的確に伝える構成員力が求められ、質疑応答では来賓の方々や教員、学生からの多様な質問に対し、論理的かつ丁寧な応答が行われました。専門分野や分析手法の異なる多様な研究が共有され、GMPにおける学際的学びと英語による高度な発信力・研究遂行力の成果を示すとともに、学生同士が相互に刺激を受け合う貴重な学修機会となり、今後の研究や進路にもつながる学びの集大成を確認する場となりました。



第6回 GMPフォーラムの様子

研究内容・研究報告

Contemporary Strategic Management / Managing Human Resources/ Accounting, Economics and Society / Consumer Behavior Research
International Corporate Strategy / The World's Corporations in a Globalized Society / Study of Insurance from a Global Perspective
Study of International Trade Risk Management / Empirical Study of Policy Evaluation / Economic and Business History: Global Perspectives

Contemporary Strategic Management (マレン ジョエル ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

This zemi introduces students to tools useful for developing business strategy in a modern world characterized by climate change, rapidly advancing technologies, and pandemic diseases, among other challenges. In this zemi we will learn about using agent-based computational simulation models and statistical models to understand how business strategies fit into the contexts in which they are deployed. Models allow the strategist to identify the critical elements of the system in which businesses act and understand how those elements influence each other.

■ 活動内容 Activities

Zemi meetings will focus primarily on group discussion of readings as well as working through code writing and model analysis together. Working closely in a small group enables students to develop technical skills related to modeling and analysis while also refining their communication skills to clearly express their ideas and reasoning.



Managing Human Resources (梁取 美夫 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

Our research group examines how organizations can effectively manage their workforces - encompassing employees, managers, and executives - to achieve strategic objectives. We adopt a global perspective, examining diverse management practices such as recruitment, selection, and compensation, implemented across different national contexts.

■ 活動内容 Activities

Our activities are designed to strike a balance between research and practical application. Students will develop the ability to: (1) read and critically analyze academic research articles, (2) apply research insights to real-world organizational management practices, and (3) conduct research to address their own business-related questions. Some activities are designed to enhance students' ability to articulate their ideas clearly and effectively in both presentations and research papers.



Accounting, Economics and Society (スズキ トモ ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

「Account+ing(説明+行為)による望ましい現実の構築」を共通のテーマとし、ビジネス、経済、国際関係、サステナビリティ等の分野で学生が主体的にテーマを選び研究を進めています。スズキ教授と共に研究を進める場合には、今後世界が直面する成熟経済社会下での持続的発展政策やWell-being政策を研究します。従来の株式会社や上場制度における利益(=株主に帰属させる付加価値)重視の経営を見直し、付加価値の適正分配・投資経営(DS経営)の可能性を探ります。DS経営政策は岸田政権以降の「新しい資本主義」と高市政権のコーポレートガバナンス改革の基礎を構成しています。国内では50社程の上場企業への実装、国際的には中国・インドでの政策化と全世界の不平等・社会問題ディスクロージャー(TISFD)との協働を進めています。

■ 活動内容 Activities

学生の多くはDS経営推進のために上場企業の社長や役員と協働し、或いは財務、法務、デジタル、文科大臣や総理補佐官らの下での長期インターンを通して実際の政策提言に貢献しています。研究室は学生に解放されており、ランチや午後ティーを楽しみながら日常会話や研究上の議論がなされます。院進や留学等の準備も積極的に支援されます。写真は学生に解放されている研究室の日常と、教授の実家・南伊豆での合宿の思い出です。



Consumer Behavior Research (フランク ビョーン ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

This seminar focuses on statistical research methods and their application in marketing. Students build on their existing marketing knowledge to understand and interpret the results of recent marketing research published in international journals. The topics covered include international marketing, environmental marketing, sensory marketing, and digital marketing.

■ 活動内容 Activities

Students apply their research skills by analyzing marketing data and designing research projects, both individually and in groups. Using English, they present creative ideas, share insights, and discuss opinions. These activities aim to develop strategic solutions to current marketing problems through a combination of established knowledge, creativity, and data-driven evidence, preparing students to communicate their conclusions effectively in an international context.



Report

International Corporate Strategy (エドマン ジェスパー ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

Operating in the global economy means not only taking advantage of new markets and innovations, but also having to managing multiple cultures, geopolitical tensions, and technological disruptions. In this zemi we focus on how multinational enterprise effectively deal with these opportunities and challenges. Topics covered include market entry strategies, global strategy, global management, cross-cultural management, and non-market strategies.

■ 活動内容 Activities

The zemi offers a mix of practical and theoretical activities, including case-study discussions, online simulations, company-collaborations, and original research. The zemi places heavy emphasis on group work, creativity, and presentations, often under time-pressure. Come prepared to work and learn!



The World's Corporations in a Globalized Society (広田 真一 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

世界中の企業の経営について学んでいます。企業の目的、行動、戦略、ファイナンス、ガバナンス、パフォーマンス(収益性、成長性、ESG)等を国ごとに比較し、各国の企業の共通点と相違点とを考察しています。そして、そうした国ごとの企業の特徴が、その国の経済、法律、文化、宗教などから生じているかどうかとも検討しています。

■ 活動内容 Activities

ゼミでの学習においては、情報収集力、自ら考える力、データを分析する力、本質を見抜く力を高めています。研究論文をグループ(3年)・個人(4年)で執筆して商学部の学生懸賞論文に応募し、毎年賞を受賞しています。国際社会でのコミュニケーション力の養成に関しては、プレゼンテーション、ディスカッション、ライティングを日本語と英語のどちらでもできるようにしています。また、今や広田ゼミの伝統となった慶應義塾大学のゼミとのインターゼミも行っています。ゼミ生は、「10年後のグローバルリーダー」を目指して日々成長しています。



Study of Insurance from a Global Perspective (中出 哲 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

保険制度は、国際的であるとともに、歴史、文化、経済制度などの特性に基づき各国で違いがあります。本ゼミでは、海外の保険制度との比較研究を基礎として、日本の保険制度の在り方を検討し、また、社会課題の解決に資する保険制度の活用や新保険商品の提案もしています。

■ 活動内容 Activities

海外との比較に加え、幅広い視野を得ることに力を入れ、研究成果を全国レベルのリスク・インシュランスセミナーや東京保険ゼミナール等で発表しています。2024年度は、学生新商品アイデアコンテストで優勝し、日本代表として韓国でのコンクールに招待され、特別賞を受賞しました。本年度も同コンテストで優勝し、日本代表として韓国で英語による発表を行いました。また、保険アイデアコンテスト(INID)では、農業融資を促進する新たな保険の提案で優秀賞を受賞しました。さらに、リスクと保険の全国大会に3チームが出場し、サプライチェーンの強靱化を促す保険、消費者向けの組込型倒産保険、コミュニケーションを活用した健康促進型保険を提言して、実務専門家、学生票による第1位、第2位をそれぞれ受賞しました。



Study of International Trade Risk Management (任 素英 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

国際貿易は国内企業に海外市場への進出機会を提供します。また、企業は国際貿易を通じて生産規模の拡大、コスト削減を実現し、規模の経済性を達成します。現在、国際貿易リスクは新たな貿易リスクで多様化しています。したがって、変化する国際貿易リスクを分析し、対応策を適用することは、持続可能な国の経済、企業のビジネスのために、欠かせない永遠のテーマです。

■ 活動内容 Activities

任ゼミでは、リスクマネジメントの理論を基に、国際貿易で発生可能な様々なリスクを把握し、実際の事例を通じて分析することに重点を置いています。国際貿易リスクに関する英語文献を通じて、英語でのグループディスカッションを行い、自らの考えを深めながら、将来の研究課題を主体的に探究します。また、グループごとに英語による発表を行い、実践的なコミュニケーション能力とプレゼンテーションスキルを高めます。これらの活動を通じて、国際的な視野と分析力、論理的思考力を養います。



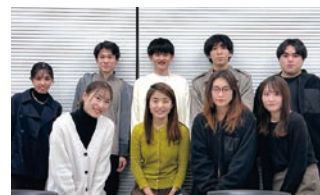
Empirical Study of Policy Evaluation (富 蓉 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

The primary aim of this seminar is to facilitate students in enhancing their decision-making proficiencies. Empirical investigations endeavor to infer a causal conclusion regarding the research inquiry by utilizing data obtained through observations or experiments.

■ 活動内容 Activities

This seminar focuses on developing evidence-based policy evaluation skills. Through empirical research using observational and experimental data, students learn methods to properly analyze causal relationships in policy effects. Activities include studying fundamental econometrics and improving data analysis skills using statistical software such as Stata. After mastering these basic research methods, students develop and present their own research projects in areas of personal interest, such as healthcare systems, educational institutions, or financial regulations. Throughout the seminar, students acquire evidence-based policy evaluation methods and develop empirical analysis skills essential for their future careers or graduate studies.



Economic and Business History: Global Perspectives (矢後 和彦 ゼミ)

■ 研究テーマ Research Theme

現代の経済史・経営史を研究しています。企業の戦略をマクロ経済の背景、産業や市場の動向、個々の企業の財務などから明らかにします。その背後にあるのは、企業の経営は過去の「経路」に拘束され、経営者の人物像も含めた極めて個性的な事象であるという考え方です。歴史は重要ですが、論理的ではありません。その論理的でないところを引き受けていくのが私たちの研究態度です。

■ 活動内容 Activities

ゼミでは日本企業を含めた多様な企業の歴史を英語で調べて発表する初歩的な勉強からはじまり、ゼミ生の関心に応じてOxfordやCambridgeのHandbookを幅広く読み込んでいきます。4年時からは卒論研究に取り組みます。テーマは個別企業の経営史、ファッションなど産業分野の展開、金融政策などのマクロ経済史、思想史や都市史など多様です。文献調査の方法からはじめて、英語によるプレゼンテーションまで、学生時代の思い出に残る研究を目指します。



学生からのコメント



黄 天舒 さん

Singapore Management University (SMU) が主催するケース・スタディ・コンペティション「BFI Case Jam」に出場し、私が所属したチームは決勝に進出し、第2位を獲得することができました。決勝では多くの聴衆と審査員を前に発表し、質疑応答では鋭い質問を受ける場面もありましたが、メンバー全員で協力し、準備してきた内容を最大限に示すことができました。チームメンバーは、国籍も学年も異なりましたが、早い段階で自己紹介を行い互いの強みを理解しました。意見が分かれる場面もありましたが、互いに支え合いながら一つの目標に向かって努力できたことが成果につながったと感じています。異なる文化的背景は多様な視点をもたらし、メンバーは常にオープンな姿勢と前向きな心で意見を受け入れ、熱心に取り組んでくれました。大会後には互いに感謝を伝え合い、記念写真を撮り、連絡先を交換しました。この出会いは私にとって大切な財産となりました。GMPの一員としてこの経験を得られ、表彰台に立てたことは大きな誇りであると同時に、商学部の学生として実際のビジネス課題に向き合う中で自分の知識にはまだ不足があることも痛感し、今後さらに専門性を高めていく必要があると強く感じました。



上田 瑞稀 さん

2025年度、GMP Student Committee (SC) 委員長を務めました。私たちSCの役割は、Forumや海外合宿の企画・運営、広報活動の実行だけにとどまりません。それらの活動を通じて、学生が主体的に学び、高め合う『共創の土壌』を醸成することを目標としています。

GMPは今、組織体制・知名度ともに発展の過渡期にあります。だからこそ今年度は、前例に捉われない企画や体制の刷新に挑みました。具体的には、学生間の交流を促進するSR (Student Recreation) の設立や、キャリア形成支援の体系化などです。中には実現に至らなかった企画もありましたが、GMPをより良くするために『果敢に挑戦する』という新たな組織風土を築けたのではないかと自負しております。

私個人としても、約120名もの学生組織のマネジメントに奔走し、多くの社会人の方々と対話を重ねる中で、代表としての責務と在り方を自問自答し続けました。この環境で培った視座と経験は、将来『Global Business Leader』として社会に貢献するための、確かな一歩となりました。

GMPへの期待

Greetings from Sungkyunkwan University: Your world is already much bigger than you think



Chae Inyoung 様

Associate Professor,
Sungkyunkwan
University

I hope you are all enjoying your GMP journey! It was such a pleasure welcoming you to Sungkyunkwan University (SKKU) in September 2025. Your energy, curiosity, and thoughtful conversations left a strong impression on all of us.

We are already looking forward to meeting you again at the Waseda-SKKU-HKUST (Hong Kong University of Science and Technology) symposium next year, hosted by Waseda. I'm sure it will be another meaningful opportunity for all of us to learn from one another and continue building a strong global community.

I hope you carry the same openness and excitement as you continue your GMP life. The friendships you build, the challenges you take on, and the perspectives you gain will stay with you for a long time. Keep exploring, keep asking questions, and keep pushing yourself forward — your world is already much bigger than you think.

GMPがグローバル社会で活躍する真のリーダーを輩出し続けるための2つの期待



宮本 秀憲 様

山梨県議会議員
山梨県監査委員

一つ目は、「GMPのOB・OGネットワークの拡充」です。従来の日本の大学の同窓会組織が親睦や寄付に重きを置くのに対し、アメリカの主要大学のアルムナイ・ネットワークは、キャリア支援、継続的な教育、そして卒業生同士の生涯にわたる連携を可能にするプラットフォームとして機能しています。GMPには、卒業生一人ひとりの成功を強力にバックアップし、プログラム全体の価値を高め続ける、そのような強固で能動的なアルムナイ・ネットワークの構築を強く望みます。

二つ目は、「異文化との対話を通じた自己理解の深化」です。皆さんが、GMPで享受できる多様性は、他者との違いを認識し、自らのアイデンティティを確立する最高の機会です。特に日本人学生には、多様な価値観との接触を通じて、自国文化を相対化し、「日本人とは何か」を深く学んでほしいです。同様に、外国人留学生の皆さんにも、日本を他者として探求し、異文化理解と自己理解を深める経験をする事を期待します。

グローバルで活躍するOB・OGをサポートするアルムナイ・ネットワークの構築と、日本人のバックグラウンドを活かしてグローバルな諸課題にチャレンジし続けてほしいと思います。

寄付者芳名

個人寄付（五十音順）

〈2024年度〉 * 2024年度活動報告書未掲載のご寄付について掲載いたします。

飯泉 清 様 大塚 宗春 様 辻 正雄 様

匿名希望 1 名

〈2025年度〉

大出 一宏 様 小西 章夫 様 齋藤 徹也 様 鳥飼 慎一郎 様

福島 裕 様 宮原 漢二 様 森村 等 様

ご支援をいただきありがとうございました。

Global Management Program

グローバル マネジメント プログラム



Global Management
Program



早稲田大学 商学部
School of Commerce, Waseda University

Website : <https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/gmp>

Tel : 03-5286-1821

E-mail : commerce16@list.waseda.jp

Address : 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス11号館3階 商学学院事務所
3rd Floor, Bldg.11, Waseda Campus, 1-6-1, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-8050

